

資料配付の場所

1. 国土交通記者会
  2. 国土交通省建設専門紙記者会
  3. 国土交通省交通運輸記者会
  4. 筑波研究学園都市記者会
- 平成 17 年 11 月 11 日同時配布

平成 17 年 11 月 11 日  
国 土 交 通 省  
国土技術政策総合研究所

～ ヒートアイランド対策に係る研究・技術開発の推進～

国土交通省総合技術開発プロジェクト  
「都市空間の熱環境評価・対策技術の開発」  
検討会（第 3 回）の開催について

1. 開催日時：平成 17 年 11 月 16 日（水）14 時～16 時
2. 会 場：霞ヶ関ビル 35 階 東京會館ゴールドスタールーム（別紙 1）  
（東京都千代田区霞が関 3-2-5）
3. 議 題：（1）東京臨海部の夏季実測調査の結果について  
（2）今後の検討課題について

検討会（別紙 2）は公開します。（カメラ撮りは検討会の冒頭のみとさせていただきますので、予めご了承ください。）

なお、検討会で配付される資料は検討会開催後、下記ウェブサイトにおいて公開する予定です。

<http://www.nilim.go.jp/lab/jeg/heat.htm>

問い合わせ先：

国土交通省国土技術政策総合研究所 都市研究部 主任研究官 鍵屋 浩司  
Tel 029-864-4065（ダイヤルイン）

# 会場案内図



東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル3 5階

- 地下鉄銀座線虎の門5 出口 3分
- 日比谷線霞が関A13 出口 5分
- 千代田線霞が関A13 出口 5分
- 丸の内線霞が関A4 出口 8分

国土交通省総合技術開発プロジェクト  
「都市空間の熱環境評価・対策技術の開発」検討会について

## 1. 検討会の趣旨・目的

ヒートアイランド現象は、大都市中心部等において観測される新しい都市の環境問題の一つとして、緊急に対策を講ずるべき課題となっている。

ヒートアイランド現象は、気温上昇の要因となる地表面被覆と人工排熱、地形・気象条件等が相互に影響しあうなどメカニズムが複雑で未解明な部分が多く、科学的知見が十分に得られていない状況にある。

このような状況を踏まえ、今後のヒートアイランド対策が効果的に実施できるように、その科学的裏付けとなる現象解明と対策の定量的評価手法等の開発を行うため、国土交通省総合技術開発プロジェクト（「都市空間の熱環境評価・対策技術の開発」）を平成16年度から3年間で実施することとしている。

この研究開発では、18年度末を目途にヒートアイランド対策の効果を総合的に評価することのできるプログラムを開発し、地方公共団体等に提供することを目標にしている。

研究開発を進めるにあたっては、研究開発成果を広く行政施策や民間等の取組みに反映させる観点から、産学官の幅広い知見を活かして進めることとし、学識経験者からの助言を得る場として検討会を設置している。この検討会は、平成17年1月に第1回、6月に第2回が開催されている。なお、検討会は本プロジェクトの最終年度の18年度まで、年間2回程度開催することとしている。

## 2. 技術開発事項

本プロジェクトは、様々なヒートアイランド対策の効果を評価可能なシミュレーション技術を開発し、地域の特性に配慮した効果的な対策を推進するための都市空間の形成手法を開発するもので、これまでの主な技術開発成果は以下の通りである。

### （1）風の効果・影響を定量化するための詳細実測調査

ヒートアイランド対策として重要な要素のひとつとして考えられる風の効果や影響について、現象解明と効果の定量化を行うため、今年7月下旬～8月上旬にかけて、東京駅周辺、汐留・新橋地区、品川地区、目黒川・大崎地区において、街路や河川、ビル屋上等の合計約190箇所に気温や風向・風速等の観測装置を設置して大規模かつ詳細な実測調査を実施した。

本実測調査では、都市空間の街路や河川に沿った、いわゆる「風の道」の存在を確認できたので、現在、その効果の定量分析を行っているところである。

## (2) ヒートアイランド現象の定量解析

ヒートアイランド対策を科学的に評価するため、東京都心の臨海部5km四方について、スーパーコンピュータ(地球シミュレータ)によるシミュレーションを実施している。これにより、モデル計算を温度、湿度、風向、風速等の観測実測値により補正し、総合的なシミュレーションを可能にするものである。

現時点で、真夏の典型日における現状をほぼシミュレートするところまで進捗しており、今後平成17年度の研究事業として、地域特性に配慮してどのような対策をどこに講ずれば、どの程度ヒートアイランド現象の緩和ができるかを評価することとしている。

## (3) ヒートアイランド対策の総合評価

(1)と(2)の成果を合わせることにより、たとえば、大崎・目黒周辺地域において、目黒川を軸とした風の通り道の確保による効果や、品川駅周辺の今後の開発に際し、「風の道」を含む新たな環境共生モデルを地域全体で評価することができるようになる。また、地域冷暖房、緑地整備、河川・下水道の整備によるせせらぎの回復等の個別対策を組み合わせた総合的な評価を行うことも可能となる。

## (今後の検討予定)

今後は、シミュレーションエリアの拡大や、東京以外の都市についても、シミュレーションを実施する必要性を検討する。

また、今回のスーパーコンピュータによるシミュレーション結果をふまえ、国や地方公共団体、民間事業者、まちづくりNPO等が利用できる実用的で簡易なヒートアイランド対策の評価ツールの開発を平成18年度に予定している。

## 3. 検討会の構成

研究開発に取り組むにあたって、学識経験者からの助言を得るために、下記メンバーによる検討会を設置している。検討会の事務的作業は(財)国土技術研究センターに委託して実施している。

座長	尾島 俊雄	早稲田大学理工学部教授
	花木 啓祐	東京大学大学院工学系研究科教授
	梅干野 晁	東京工業大学大学院総合理工学研究科教授
	丸田 頼一	千葉大学名誉教授
	三上 岳彦	首都大学東京大学院理学研究科教授

(五十音順、敬称略)

事務局 国土技術政策総合研究所、国土地理院、独立行政法人建築研究所

なお検討会には、国土交通省本省関係課、気象庁、環境省、東京都等も参画する。